

2023 年度年次報告書

文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創

2023 年度採択研究代表者

高野 雅典

(株)サイバーエージェント 学際的情報科学センター
リサーチャー

人々の抱える問題を改善するメタバース体験のデザイン

研究成果の概要

本研究ではメタバース上でのアンケート調査・介入実験を行い、個人の抱える問題における介入効果や社会ネットワークの変化を明らかにすることを目的とする。具体的にはメタバースの利用体験への介入によって利用者のメタバースや現実の社会の社会的行動変容を促し、両社会における利用者の社会ネットワークの深化・拡大を目指す。それらの知見を元に介入効果がメタバースと現実の2層社会ネットワークモデルを構築し介入の長期的・大域的な効果の評価を行う。

本年度は「メダハースのどこにどのように介入することでどのような効果が得られるか？」について探索するために、複数のメタバースプラットフォーム・ソーシャルメディアの利用者について横断調査を設計し実施した。本調査では、介入候補となるメタバース行動は、プラットフォームによる介入しやすさと社会関係の深化・拡大やメンタルヘルスへの効果を考慮に入れて設計を行った。例えばメタバースでのアバターのカスタマイズやコミュニケーション行動などである。解決対象とする利用者の抱える問題についてはオンラインでの社会関係によって改善可能性があることが示唆されているものを中心に検討を行った。例えば、現実の世界で開示することにリスクとスティグマが伴いうる属性・環境などである。また、それらへの効果によってメンタルヘルスの増進が期待されるためメンタルヘルス指標(精神的健康・抑うつ・躁症状など)も測定を行った。

分析の結果、メタバース上での社会的行動促進はメタバース・現実の両方のソーシャルサポートを増加させ、その結果、メタバース利用者の現実での問題解決行動を促進すること、幅広い問題に対して効果があることがわかった。